



第1回 進路説明会



令和7年6月13日(金)6校時
福生市立福生第三中学校

3年 組 番 氏名



もくじ

はじめに ～これからの進路に向けて～	… 2
1 進路先について	… 2
2 入試制度について	… 5
3 進路を考えるポイント	… 7
4 奨学金制度について	… 7
5 令和7年度 第三学年 進路計画	… 8
本校の推薦基準について	… 9
令和6年度 進路先一覧	… 10

はじめに ～これからの進路に向けて～

進路を決めるのは自分自身

これからの自分の人生は君たち自身で判断するものです。しかし、自分一人で決めるものでもありません。進学には、金銭面を初めいろいろな面で保護者の方の助けが必要です。家庭でよく相談し、保護者の方にも納得してもらった上で、自分の進路を決めていきましょう。また、先生方は君たちの求めている情報を伝えたり、より良い状況へ導くための環境を整えたりすることはできますが、君たちの進路を決めることはできません。最後に進路決定するのは自分自身です。よく考え、納得のいく進路選択をしてください。

1 進路先について

(1) 高等学校

① 都立高校・私立高校

東京都の場合、高等学校は、設置者によって大きく国立・都立・私立があります。

都立高校は都内に住所がある生徒ならどの学校でも受検できますが、同日に検査を行うため一校しか受検できません。学校によってそれぞれ特色のある教育を行っています。普通科・専門学科に加えて総合学科、コース制、単位制、各種重点校等、生徒のニーズに合わせて多様化しています。

私立高校は、居住地に関係なく、日程が合えば何校でも受験できます。それぞれの学校の建学の精神に基づくさまざまなスタイルがあります。男子校、女子校もありますが、近年は共学化が進んでいます。また、宗教的背景をもつ学校もあります。それぞれの学校の特色をよく調べて、自分に合っているかどうかを検討する必要があります。

② 授業時間帯について

全日制課程・定時制課程・通信制課程があります。

全日制課程…朝から午後までの日中に授業があります。

定時制課程…夜間、もしくは日中の定められた時間帯に授業があります。

通信制課程…自宅で学習し、レポート等で指導を受けます。学校には定められた日に登校します。

③ 系列や系統について

「〇〇大学付属」「△△学園附属」などの学校は、学校内の選考試験や通知表の結果で、系列学校への進学の道が開かれている場合が多いです。大学進学を希望する場合は、希望する学部があるか、大学への進学状況はどうか、進学システムはどうなっているかなども考慮しましょう。大学の付属校でありながら、他大学への進学を奨励している学校もあります。その他にも、高校卒業後に企業や上級学校と関連している高校があります。

④ カリキュラムについて

各学校の特色が最もよくあらわれるところです。卒業後の進路を見据え、特定の教科を重点的に指導するなど、様々な形態による授業を行います。私立高校ではその特徴がさらにはっきりとあらわれています。

都立高校でも同様の考え方が普及し、進学重視の単位制の高校や幅広い選択授業が用意された総合学科がある高校などがあります。

⑤ 部活動や学校行事について

高校生活も学習がメインになりますが、部活動や学校行事も大きなウエイトを占めます。私立高校では、学校の特色とし、特定の部活動に力を注いで全国レベルで活躍している学校もあります。近年は、都立高校でも、文化・スポーツ等特別推薦枠を利用して特定の部活動に力を注ぐ学校があります。部活動や行事等についてもチェックしておくといでしょう。

(2) 専修学校

専修学校は、大学・短期大学・高等専門学校などの学校以外で、職業や生活に必要な能力を育成しまたは教養の向上を図ることを目的とする教育施設です。

専修学校には三つの課程があります。

- ・専門課程（高校卒業以上で入学資格）
- ・高等課程（中学卒業以上で入学資格）
- ・一般課程（学歴不問）

専修学校の中には、高校との連携によって高卒の資格が取得できる学校もあります。高等課程で取得できる国家資格には、電気工事士・調理師・3級自動車整備士・准看護師・理美容師・製菓衛生士・看護福祉士などがあります。

(3) 高等専門学校

- ① 工業高校卒業者以上の専門知識や技術をもった専門技術者を養成する目的で創られた学校。
- ② 修業年限は5年で、卒業すると短期大学卒業と同等の資格が得られます。
- ③ 卒業後は高度な技術をもった技術者として就職することができます。また、一般大学の3年生に編入したり、高等専門学校の上級に創られた大学に進学したりすることができます。
- ④ 都立入試よりも早い時期に一般入試が行われています。
- ⑤ 都内にある高等専門学校の例
 - (ア) 国立東京工業高等専門学校（国立）
京王線狹間駅徒歩2分
機械工学科、電気工学科、電子工学科、情報工学科、物質工学科、専攻科、一般教育科
 - (イ) 東京都立産業技術高等専門学校（都立）
品川キャンパス・荒川キャンパス
ものづくり工学科
 - (ウ) サレジオ工業高等専門学校（私立）
京王相模原線多摩境駅 徒歩約10分
電気工学科、機械電子工学科、デザイン学科、情報工学科

(4) サポート校

- ① 不登校の生徒などに対応した、高等学校卒業資格の取得できる学校です。
- ② もともと通信制の高校との連携が多く、通常の高校と同様に登校するところから、自宅学習が中心となるところなど、さまざまな形態があります。
- ③ 小規模なところが多く、入試形態も様々です。入試の時期が早い学校もあり、注意が必要です。

(5) 就職

① 企業内学校

その企業に必要な知識、技能を学び、卒業後にはその企業の中堅技術者として採用されます。高校卒業の資格も取得できます。扱いは就職となるので、高校入試より早めの対応が必要になります。応募手続きは、中学校を通じて、ハローワークへ書類を提出します。

例えば、日野工業高等学園（東京都）、トヨタ工業学園（愛知県）、日立工業専修学校（茨城県）、デンソー工業学園（愛知県）等もあります。

例：日野工業高等学園

- ・日野自動車工業の企業内訓練校。男女とも応募可能です。
- ・機械加工科・塑性加工科・自動車製造科・製造設備科があります。
- ・入学とともに日野自動車工業の社員となります。したがって、生徒手当（月額）・特別手当（年2回7月・12月）が支給されます。
- ・卒業後は日野自動車で働きます。本人の適性を考慮したうえで、日野自動車の製造職場を中心に、各部門に正式配属されます。
- ・選考方法（昨年度）
→筆記試験（国語、数学、英語）、面接、適性検査で、1月中旬に行われました。

② ハローワーク

就職を希望する場合は、決定した時点ですぐ担任に申し出てください。就職相談票を作成し、ハローワークに連絡します。その後求人票を見ながら試験や面接にのぞむ事業所を決めていくことになります。ハローワークを通さない場合、福利厚生などの面で整備されていない職場に就職してしまうこともあるので注意が必要です。

2 入試制度について

(1) 都立高校

都立高校の入試には、推薦に基づく選抜（推薦入試）、学力検査に基づく選抜（一般入試）があります。また、学力検査によらない入試を行う学校もあります。

① 推薦入試

推薦入試は志願する都立高校を第一志望とする生徒を対象とします。合格したら必ずその学校に入学しなければならず、他の学校は受験（受検）できません。都立高校の推薦入試は次の二種類があります。

【一般推薦】

中学校長の推薦を受けた生徒が応募できます。本人の希望を受け、推薦基準を満たしているかどうかを推薦委員会で審査し、中学校長の承認を受けた上で出願します。調査書点、作文もしくは小論文、面接、集団討論等の総合成績で可否を判定します。

【文化・スポーツ等特別推薦】

生徒の個性を伸長すると共に、高等学校の個性化・特色化を図ることを目的としています。一般推薦と同様、中学校長の承認を受け、出願します。一般推薦と同様、調査書点や作文等の他に、応募する競技等の実技検査が実施されます。

※特別推薦は、一般推薦と併せて出願することができます。

② 一般入試

一般入試は、原則として調査書点と学力検査の点数及びスピーキングテスト（ESAT-J）の結果を合計した総合成績によって選抜を行います。学校によっては、作文や面接、実技検査等を実施し、その点数も加えた総合成績で実施します。

調査書点は、三年生の一学期から二学期までの各教科の評定から算出します。

学力検査は、原則として国語・数学・英語・社会・理科の五教科で実施します。学校や学科によっては、国語・数学・英語の三教科での実施や、特定の教科の比重が大きくなる等、さまざまな形態があります。また、都立高校共通問題ではなく、自校で問題を作成する学校もあります。

※都立高校の第二次募集・分割後期募集について → 今年度はさらに変更あり

一般入試の第一次募集で募集人員に達しない学校は二次募集を行います。また、あらかじめ前後期の二回に分けて分割募集を行う学校もあります。都立高校の第一次募集入試で不合格となった場合に受検できますが、後述する私立高校の併願優遇措置を受けた場合、第一志望の学校に不合格になったら必ずその私立高校に入学しなければならないので、二次募集や分割後期募集を受検することはできません。

(2) 私立高校

① 推薦入試

志願する学校を第一志望とする生徒を対象とします。都立高校と同様、中学校長の推薦を受けるのは勿論ですが、成績や出席日数等、志願する高等学校の示す推薦基準を満たす必要があります。学校によっては、説明会への参加を条件にしているところもあります。また、原則として、出願前に中学校の教員と志願する学校とで入試相談を行い、受験資格についての確認を行います。

また、いわゆるスポーツ推薦等、学力に加え本人の得意分野における能力や実績に基づいた推薦入試を実施している学校もあります。このような推薦入試は、一般的な方法とは異なる形で実施されることがあります。また、これらの推薦入試は一般的な入試相談よりもさらに早い時期に事前相談を行うことがあります。夏休みに体験入部やセレクションに参加し、二学期初めから中ごろには受験が決まるというところが多いので、早めの準備が必要です。

② 一般入試

学力試験の結果により合否が決まります。多くの学校が国語・数学・英語の三教科で実施しています。

私立高校の一般入試には、原則として次の三種類の形態がありますが、学校によって仕組みが異なるのでよく調べる必要があります。

【第一志望優遇】

志願する学校が第一志望だが、成績等の推薦基準を満たすことができず推薦入試を受験できない場合に、一般入試で優遇措置を受けることができます。推薦入試同様、合格したら必ずその学校に入学し、他の学校を受験することはできません。実施している学校とそうでない学校があるので、確認する必要があります。また、入試相談を必要とする学校もあります。

【第二志望優遇（併願優遇）】

都立高校または他の私立高校を第一志望とし、その学校が不合格となった場合に必ず入学することを条件に、優遇装置を受けることができます。入試相談を必要とします。都立高校との併願のみを対象とし、他の私立高校との併願は認めない学校もあるので、確認が必要です。

【一般受験】

優遇措置を受けずに受験します。入試相談ありません。

※ 第一志望優遇・第二志望優遇については、一般入試ではありますが、推薦入試と同様に入試相談を通すため、推薦入試と同等の扱いとなります。受験校の示す基準とともに、本校の推薦基準を満たす必要があります。

※ 前述の通り、推薦や併願優遇を希望する場合、入試相談を必要とします。入試相談は毎年12月15日から実施されます。したがって、この日までに受験の意思を固め、担任に希望届を提出しなければなりません。私立高校への進学を希望する生徒は、早めの志望校決定が必要です。また、入試相談後の志望校の変更はできません。ご家庭でよくご相談の上、志望校選択を行ってください。

3 進路を考えるポイント

(1) 自分にとって何がベストなのかを考えましょう

ランクや倍率だけを見て志望校を決めるのはよい方法とは言えません。自分が三年間通う学校です。学習面に限らずさまざまな観点から学校を調べ、本当に自分に合っている学校を見つけましょう。

大事なのは高校に入ることではなく、入ってからの生き方です。これは就職等、高校進学以外の進路でも同じです。自分にとって一番よい道は何か、よく考え、選択しましょう。

(2) 入試制度に対する理解を深めましょう

これから、各校で学校説明会や授業公開が行われます。色々な受験の仕方があることを理解しましょう。特に、私立高校は定員や試験日、学力基準や選抜方法などを毎年変更することがあります。自分の入試に向けた確実な情報を入手しましょう。

(3) 最初は「選ぶ」努力が大切ですが、最後は「選ばれる」ように自分を磨きましょう

世の中にたくさんある学校から、自分がいくつかの学校にしばっていくことが、重要な作業です。ある程度選ぶことができたなら、最後は選ばれるための努力をする段階に入ります。自分が選んだ学校に選ばれるためにはどのような努力が必要か、よく考え、行動に移しましょう。

4 奨学金制度について

家庭の経済的な事情によって進学が困難な場合には、学費等の一部を貸与（卒業後に返還する義務がある）、または給付（返還しなくてよい）してくれる奨学金制度があります。

○「東京都育英資金」（貸与）

経済的理由により修学が困難な方を対象とします。中学校を通しての申し込みになるので、募集案内をよく確認してください。

○「あしなが育英会」（貸与）

保護者が病気・災害・自死遺児、後遺障害等で働けない家庭の生徒を対象とします。9月1日より募集開始。

○「交通遺児育英会」（貸与）

保護者が交通事故により死亡・重度後遺障害となった家庭の生徒を対象とします。第1次予約募集が8月31日、第2次予約募集が令和8年1月31日より行われます。

※これら以外にも様々な奨学金制度があります。中学校では、ポスターやチラシ等を通して随時紹介しますので、希望する方はよくご確認ください。福生市ホームページ等もご覧ください。

5 令和7年度 第3学年 進路計画

	月	予定	
1学期	6月	13日 第1回進路説明会 下旬 第2回進路希望調査 18日～20日 期末考査 23日 第1回復習確認テスト	学校見学会・説明会・体験
	7月	22日～ 三者面談	
夏休み		学校見学など	
2学期	8月	28日 第2回復習確認テスト	
	9月	25日～26日 中間考査	
	10月	17日 第2回進路説明会 27日 第3回復習確認テスト 下旬 第3回進路希望調査 30日～ 三者面談	
	11月	～6日 三者面談 12日～14日 期末考査 下旬 第4回進路希望調査 23日 ESAT-J(中学校英語スピーキングテスト)	
	12月	2日～8日 進路面談 15日～ 私立高校入試相談	
3学期	1月	下旬 私立推薦入試 26日～27日 都立推薦入試	
	2月	上旬(10日～) 私立一般入試 21日 都立第一次募集および分割前期募集	
	3月	10日 都立分割後期募集および第二次募集	

ESAT-J
受験申込

高等学校等への本校の推薦基準について

推薦制度を用いた受験（受検）について、本校の推薦基準は以下の通りです。

推薦するにあたり、「福生市立福生第三中学校」として推薦できる人物である必要があります。社会や学校のルールを守り、普段の生活がしっかり送れていること、また、進路決定後や進学してからも同様の生活を続けられることが条件です。

【本校の推薦基準】

- 1 志望する学校の示す推薦基準（成績・欠席数・遅刻数・早退数等）を満たしている生徒。
- 2 志望する学校の志望理由が明確であり、入学した際には福生第三中学校の推薦を受けた者としてふさわしい生活を送ることができる生徒。
- 3 基本的生活習慣が身に付いており、出席状況が良好である生徒。
- 4 学校や社会のルールを守り、生活指導上問題のない生徒。
- 5 学業を初め、学校生活にまじめな取り組みが認められる生徒。

【注意事項】

- 1 推薦を希望する学校が第一志望であることが条件です。合格したら必ず入学しなければなりません。
- 2 推薦を希望する学校に合格した場合、他の学校は一切受験（受検）できません。
- 3 併願優遇制度を利用する場合も、本推薦基準と同等の扱いとなります。第一志望の学校に不合格となった場合、必ず併願校に入学しなければなりません。
- 4 上記の推薦基準は全ての上級学校の推薦制度に適用されます。

令和6年度 進路先一覧

都立高校		私立高校	
進学先（全日制）		進 学 先	
秋留台		聖徳学園	
青梅総合		昭和第一学園	
片倉		聖パウロ	
国立		世田谷学園	
国際		拓殖大学第一	
小平		東海大諏訪	
小平西		日大明誠	
小平南		八王子学園	
上水		八王子実践	
第五商業		東野	
田無工科		文華女子	
多摩		明星	
多摩工科			
拝島			
八王子桑志			
八王子東			
東村山			
東大和		高専、専修、通信制その他	
東大和南		大竹高等専修	
日野		清和学園	
富士森			
府中			
福生			
松が谷			
都立高校（定時制、その他）			
五日市			
第五商業			
八王子拓真			
都立進学者合計人数	5 9	私立進学者合計人数	1 9

